



かしま・とおる (社)JA総合研
究所 主席研究員、博士(農業経済
学) Ph.D、農協監査士。19
82年JA全中入会、JA全国監
査機構・全国監査部次長、JA全

中経営改善対策室次長を経て20
07年から現職。著書『農協の総
合的リスクマネジメント』(単
著)、『コメ輸入自由化の影響予
測』『日本農業の課題と政策提言』
『食料・貿易・環境の計量分析』
(共著)。

を保持する内部ルールの仕
組みをどう構築するか。ほ
かの金融機関とは異なる金
融業や経済事業など総合事
業を営んでいるJAの総合
的なリスクマネジメントは
どうあるべきなのか、また
何が大切なのか。
リスクマネジメントは単
にJAの継続性を保証する
(JA総合研究所主席研
究員・加島徹)

(次回は16日付)

これまでJA全中で主に
監査業務や経営不振のJA
対策に携わってきた。経営
不振のJAの現場で最も痛
感するのは経営が人によっ
て大きく左右されてしまう
という現実だった。つま
り、JAの経営が良くなる
のも悪くなるのもマネジメ
ントの良しあしに大きく関
係している。
JAのマネジメントはこ
れまで人の経験や勘に頼っ
てきた。経験と勘に優れた

職場のマネジメント ⑥2

人・経営者がいる場合は良
い方向に変化するが、間違
った方向に向かった場合
は、たとえ経営状態が良く

JAのリスク管理

しまう。
一人の人の経験と勘に頼
るのではなく、数値や客観
的な分析に基づいて合議
制で経営判断やマネジメ
ントを行う継続的なマネジ
メントの仕組みがどうして
も必要だ。組合員は世代

者のための組織である。
経営が人によって左右され
るのではなく、安定的に確
実に継続されてサービスを
提供していけることが最も
重要だ。
恒久的な経営の継続性
(ゴーイングコンサーン)

だけではなく、収益の改善
や経営の改革にも大いに寄
与する。客観的なデータや
分析に基づき改善案を作成
し、経営の方向性を変える
決定を役員がマネジメント
として実施することで収支
が大幅に改善する。
リスクマネジメントの導
入で重要なのは、経営者自
らの問題意識である。中国
の鄧小平氏が中国の発展で

経営判断に客観性を

ても将来的には経営そのも
のの存続さえ危うくなって
を越えて組合員であるし、
JAは組合員といった利用

「富める者から先に富め」
と言って中国を現在の発展
に導いたが、JAのリスク
マネジメントも同様に経営
者がその必要性に気付いて
いるJAから始めることで
ある。